

令和3年度 災害時多言語情報センター運営訓練及び事前会議 開催報告

(公財) 埼玉県国際交流協会では、災害時に県の要請により「災害時多言語情報センター」を設置・運営することになっている。

災害発生時、迅速にセンターを設置・運営できるよう、大規模災害を想定し、市町村、市町村国際交流協会及びボランティアを対象とした事前会議やシミュレーション訓練を行った。

1 事前会議

災害時多言語情報センター運営訓練に先立ち、訓練の実施方法を説明すると共に識者による講演をオンラインにより開催した。

実施日時 令和4年2月21日(月) 13:30~15:15

参加者 市町村及び市町村国際交流協会職員 26人

内容

- ・【講演】「外国人住民への災害対応啓発の必要性とその具体的な方法」
NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 柴垣禎氏
- ・「災害時多言語情報センター」について
- ・運営訓練の実施について

2 災害時多言語情報センター運営訓練

実際の災害を想定し、「外国人の被災状況確認」及び「被災者への提供情報の翻訳」について、メールを利用したシミュレーション訓練を行った。県災害対策本部からの情報として多言語情報をメール等及びホームページにも掲載した。

実施日時 令和4年3月7日(月) 10:00~15:00

参加者 市町村担当者 34人

市町村国際交流協会担当者 5人

協会通訳・翻訳ボランティア 30人

語学別内訳(延べ人数)	英語	14人
	中国語	5人
	スペイン語	8人
	ポルトガル語	3人

埼玉県国際課 1名

埼玉県国際交流協会(災害時多言語情報センター) 7名

訓練の流れ

時間	内容
10:01	県国際課から「災害時多言語情報センター」設置要請が届く
10:18	訓練開始を市町担当者、市協会担当者、翻訳ボランティアにメールで伝達
10:40	県国際課から、災害対策本部からの情報①が届く
10:48	市町担当者及び市町国際交流協会から被災状況報告書と翻訳依頼が届く（以降、受付締め切りの12時までに各市町より報告あり）
11:08	災害時多言語情報センターから翻訳ボランティアへ依頼を開始（以降、翻訳依頼が届き次第、随時メールで依頼）
11:39	翻訳ボランティアから翻訳済み文書が届く（以降、14:56まで随時）
11:57	災害時多言語情報センターから翻訳依頼のあった市町へ、翻訳文書の返送を開始（以降、15:02まで随時）
12:39	災害対策本部情報①（翻訳済み）を参加市町等あて送付
13:27	県国際課から、災害対策本部からの情報②が届く
14:20	災害対策本部情報②（翻訳済み）を参加市町等あて送付
15:23	訓練終了を、市町担当者、市国際交流協会及び翻訳ボランティアへ伝達

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ 停電が危惧される災害時に今回の運営訓練のような方法がとれるのか疑問。
- ・ 出来る限り連絡を取り合って活動できると良いと思う。
- ・ 言語のみでなく、文化の相違にも対応した適切な避難情報等の提供・支援
- ・ アジアの言語、今だったらロシア語やウクライナ語など、自分の地域で多くのボランティアが見込まれない言語の通訳・翻訳を期待。
- ・ 言葉の壁により外国人が情報弱者になりやすい災害時に、各言語への翻訳や、多言語での情報提供はありがたく、活用させていただきたい。
- ・ 避難所等で使用するどの市町村でも使用できるような汎用性のある多言語翻訳されたものは、依頼がなくても災害時に提供いただけると、お互いにメリットになるのでは。
- ・ 避難所生活にはハラル食や礼拝への理解が求められることもあり、外国人対応に改善の余地が多く残ることを実感。
- ・ 避難所以外に避難している外国人への対応が心配。自宅待機や民間商業施設など避難所循環といっても全部をケアできる体制は厳しい。
- ・ 言語や文化の相違を乗り越え、避難指示等を理解してもらえるか心配。